

釧路市教育委員会 令和6年第14回8月定例会会議録

1 日時：令和6年8月28日（水）13時30分から15時00分まで

2 会場：釧路フィッシャーメンズワープMOO 2階 教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、小出美貴子委員、靱山彩子委員、大山稔彦委員

（事務局）

齋藤学校教育部長、工藤生涯学習部長、本川教育指導参事、森学校教育部次長、大島総務課長、西崎施設計画主幹、小西教育政策主幹、齊藤総括指導主事、佐藤青少年育成センター所長、渡部給食担当主幹、及川北陽高校事務長、澤口生涯学習部次長、曾根美術館長、竹内スポーツ課長、鈴木園長

4 議事録署名人 山口委員 大山委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

報告事項

（1）令和6年度釧路市子どもミーティングの開催について

（2）第52回釧路湿原マラソンの開催結果について

（3）千葉県八千代市との友好都市協定の締結について

（4）学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】報告事項

(1) 令和6年度釧路市子どもミーティングの開催について

(齊藤総括指導主事)

報告事項1、令和6年度釧路市子どもミーティングの開催について報告する。

今年度の「釧路市子どもミーティング」は、令和6年8月31日（土）に「まなぼつと幣舞」を会場に実施するものである。

会場での参加は「釧路市健全育成標語」の入選者表彰を受ける児童生徒、子どもミーティング参加者および関係の保護者、引率の教職員という形で実施する。昨年度まで実施していたオンラインによる配信を取りやめ、子どもたちがミーティングで議論している様子をいつでも見ることができるよう、オンデマンド方式による配信を行う予定である。

今回、参加する子どもたちが、郷土くしろを愛し、自らが夢や希望をもち、主体的に社会に参画する意識や態度を育む「ふるさとキャリア教育」の一環として取組を進めてまいりたいと考えている。このことから、今回のテーマを「釧路市の未来について～つくろうあたらしい釧路市を～」とし、釧路市の未来のまちづくりをテーマに、中学生や高校生の率直な考えや意見を創出する場として位置付け、議論の様子を大人が聞き、共に釧路市の未来のために考え、行動していく場として進めていきたいと考えている。参加する大人側は子供たちのオブザーバーとして釧路市PTA連合会、釧路市連合町内会、釧路市文化団体連絡協議会、今回新たに様々な施策を推進する行政の立場として、釧路市役所都市経営課、こども育成課、観光振興室、市民協働推進課の職員に来ていただき、様々な施策の参考となるよう、子どもたちらしい純粋な意見や考えを発信していく場にしたいと考えている。

次年度以降は、今回行った「子どもミーティング」と教育委員会がこれまで進めてきた「キャリアシンポジウム」や「ジョブカフェ」などキャリア教育の様々な施策を一体的に推進し、市内中学校での総合的な学習の充実につなげ、教育行政方針の基本理念である「釧路の風土で育まれ、未来を拓く、心豊かな人づくり」に向けて「ふるさとキャリア教育」の充実を図ってまいりたいと考えている。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

資料に「子どもたちからの提言として発表することを通して」とあるが、各学校の生徒会の取組として、事前にまちづくりについて子どもたちがどういうふうにか考えるか、どのように参画していけるかということ、話し合うということで良いか。

(齊藤総括指導主事)

基本的にはそういった考えだが、参加する生徒に対して今回は釧路市の基本データという

ものを渡し、その事前資料を見てもらいながら、釧路市の未来について考えてきてもらうという流れになっている。生徒会の活動の中で、役員同士で議論したり、意見を集約した中で今回のミーティングに参加してもらう流れになっている。

(山口委員)

昨日の議案説明の際に話題になったが、これをイベントとして終わらせるのではなく、各学校にどのように還元していけるか、各学校に戻り子どもたちのまちづくりに対する意識の啓発に繋がっていくような取組であって欲しいという意見が出た。そうすると前段、本番、各学校での振り返り、そういうものがセットになって進められると、なお良いと思うのでお願いしたい。ジョブカフェ等様々な取組みと一体的に進めていけるというのは、素晴らしいことだと思うので、そういう方向で進めていただければと思う。

(齊藤総括指導主事)

とても大事な視点だと思う。どのような形で繋げていけるか今後検討していく。

(山口委員)

今まで子どもたちが参加するイベントが参画していく形に変わっていけば、もっと子どもたちの釧路に対する理解も深まり、将来釧路で頑張ろうという気持ちに繋がっていくと思うので、期待している。

(小出委員)

今年は残念ながら参加することができないが、いつも子どもたちの生の声を聞ける場ということで、楽しみにしていた。今回のテーマを見たときに、去年のテーマが繋がりを深めるために学校や地域でできることということで、そこからの流れもあって、今年はこのテーマなのかと思っている。今年の春に開催された、キャリアシンポジウムにも繋がりのあるテーマと思っており、その中で先ほどの説明があったので、理解することができた。

昨年グループに参加して話を聞かせてもらっている中で、子どもによって、いつもそういうことを考えている子だと発言ができるが、そのとき来て初めて考えたようなことだと発言ができない子がいるなど、議論の深まりに影響しているようなところもあったので、山口委員や齊藤総括からの説明にもあったとおり、事前に考えてから、その場に臨むというのは大事かと思う。

また本件のテーマが「釧路市の未来について～つくろうあたらしい釧路市を～」であることから、春のキャリアシンポジウムもとても良かったため、グループにＪＣの人が入ると何か面白い意見が出るのではないかと考えている。

(齊藤総括指導主事)

今後、メンバー構成等も含めてしっかり考えていかなければならないと思う。

(山口委員)

今回市役所関係部署の参加が得られるというのは一歩前進だと思う。教育委員会の取組みという括りだけではなく、釧路市全体として関わっていかなければならないという意識に繋がっていくのではないかと思う。

また、釧路の子ども大集合の際に、小学生と中学生と高校生が同じ日にディスカッション

を実施したことがあるが、その時は小学生に難しさを感じた。しかし現在の小学生は話し合い活動等の事業を活発に行っているため子どもミーティングの小学校バージョンというのも今後検討されれば、小学校での経験が中学校で活かされていくのではないかなと思うが、難しいか。

(岡部教育長)

テーマによるが、今回のようなテーマだと難しい。

(齊藤総括指導主事)

もっと身近なものや自分事に捉えやすいものであれば上手くいく可能性はあると思う。今回オンデマンドにしたというところには一つの意図があり、映像データが残るため、これを総合の授業でどのように活用できるかというところが一つのポイントになっている。そのあたりを来年、中学校においてこういった形で映像を活用していくかということを踏まえ、状況を確認しながら小学校に拡充していくかを含めて検討していきたいと思う。

(大山委員)

この子どもミーティングが出来た経過は、釧路の子ども大集合をコンパクトにするためではなく、オンラインで発信できるため全ての子どもたちが関われるという狙いから作ったのが始まりだった。今後検討して欲しいのだが、当時読書をテーマとしたのは、読書を中学生、高校生がどうしてもできるかを考え、中学生は自分の学校へ持ち帰り、校区の小学生にもそれを伝えるというのが最初の趣旨であったが、徐々に難しくなり、最近はコンパクトにまとまっている感じがする。将来的にこの子どもミーティングの役割をどうするのかということも含めて、検討してもらわなければ、中途半端に終わってしまうと感じるので、検討をお願いしたい。

(榎山委員)

中学生の話になるが、高校生に対しての憧れや、見本にしたいという気持ちを強く持っているようで、このミーティングの中で、高校生が司会をして、そういった格好良い姿を見たり、ディスカッションの中で一緒に答弁ができるというところに得られるものが大きいように感じる。小学生がこの中に参加することは難しいかもしれないが、中学生にも憧れを持っていると思うので、上手く盛り込めたらと思う。

【公開案件】報告事項

(2) 第52回釧路湿原マラソンの開催結果について

(竹内スポーツ課長)

報告事項2、第52回釧路湿原マラソンの開催結果について報告する。

7月28日(日)に第52回釧路湿原マラソン大会が開催された。

参加申込者数については「2,695名」、参加者数については「2,505名」であった。参加者総数は前回大会より減少となったが、釧路管内の全小中学生へのチラシ配布や、部活動単位での参加を依頼するなどの取り組みの結果、小学生の参加者については、前回は上回

る人数となった。

大会当日の気温については、最高気温 20.0 度と、観測史上最高となる 33.5 度を記録した前々回大会、最高気温 26.6 度を記録した前回大会と比較すると走りやすい気温となり、雨が降っていたものの、30 キロマラソンの完走率は 96.0 % と、前回大会を上回る結果となった。

大会当日における救護手当の状況については、33 件の救護対応があり、そのうち救急搬送者が 2 名いたが、1 名は当日のうちに帰宅、1 名は検査入院を含めて 1 か月程度の入院予定となっていたが、8 月 9 日に退院し、通院での治療を行う予定であることを確認している。

ゲストランナーについては、前回大会に引き続き、陸上競技の実業団チームである小森コーポレーション陸上競技部に参加いただき、30 キロマラソンには「柴田 拓真（しばた たくま）選手」、「大崎 遼（おおさき りょう）選手」の 2 選手、10 キロマラソンには「金森 寛人（かなもり ひろと）選手」ほか 9 名の合計 10 選手に参加いただき、大会を盛り上げていただいた。例年参加いただいていた川内優輝選手については、パリオリンピックの補欠選手ということで、今回は不参加となっている。

本事業の実施にあたり、739 名のボランティアの方々に大会運営のスタッフ等として格別のご協力をいただいたことに、改めて感謝を申し上げるとともに、今後とも、釧路湿原マラソンが市民はもとより、全国各地から多くの方々に参加いただける魅力あるスポーツイベントとして発展するよう、さらに運営面などの充実に努めてまいりたいと考えている。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

（大山委員）

一生懸命取組んで頂き有難いと思っている。今後もぜひ子どもたちに声をかけていただき、市民全体で参加できるようなマラソン大会になれば良いと思うので、お願いしたい。

【公開案件】報告事項

（3）千葉県八千代市との友好都市協定の締結について

（竹内スポーツ課長）

報告事項 3、千葉県八千代市との友好都市協定締結について報告する。

釧路市と千葉県八千代市は、昭和 52 年に市民運動の成果として、釧路市の幣舞橋にブロンズ像を設置した歴史を参考としながら、八千代市でも同様の市民運動が行われ、その結果、昭和 56 年、四季像のうち夏の作者である佐藤忠良（さとうちゅうりょう）氏が作成した 2 基のブロンズ像を村上橋に設置したことを縁とし、両市の間では昭和 57 年度より、交互に小学生によるスポーツ交歓大会を開催し、スポーツ交流による友好の絆を深めてきた。40 年以上の長きにわたり育んできた友好関係を一層発展させ、今後も継続的に交流を深め、相互の繁栄を築いていきたいとの想いを双方が共有し、この度の友好都市協定の締結に至った

ものである。

スポーツ交歓大会については、新型コロナウイルス感染症の影響により、平成30年度の八千代市での開催を最後に延期となっていたが、本年、6年ぶりとなる「第36回ブロンズ像友好鉦路市・八千代市少年少女スポーツ交歓大会」を8月2日から4日までの3日間、鉦路市において開催した。

大会期間中である8月2日に、友好都市協定調印式を実施し、八千代市からは服部友則（はっとり ともり）市長、末永 隆（すえなが たかし）議長をはじめとする81名、鉦路市からは蝦名市長、畑中議長をはじめとする64名の選手や関係者に出席いただき、両市長による協定書への調印、記念品の交換、記念撮影等を行った。

今後については、これまでのスポーツ交流に加え、文化や経済など、幅広い分野における交流を促進してまいりたいと考えている。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

（山口委員）

資料の写真に野球の選手が写っているが、交流は野球のほかにもどのようなものがあるのか。

（竹内スポーツ課長）

ミニバスケットとサッカーがある。

【公開案件】報告事項

（4）学校の現状について

（本川教育指導参事）

報告事項4、学校の現状について報告する。

今年は7月27日から8月25日までの30日間と、例年よりも5日ほど長い夏季休業が終わった。幸い、交通事故をはじめとする、大きな事故や事件に巻き込まれたとの報告も今のところない。夏季休業日が延長されたこともあり、先生方も自身の夏季休暇や年次休暇等を例年より多めに取得して思い思いの過ごし方をした方が多いせいか、学校閉庁日明けに久々に学校に出勤してきた先生方の表情からは、各自リフレッシュした感が伝わってくるような良い顔をしていたと、ある校長よりうかがっている。

夏休み中ではあったが、交流事業として音別中学校が徳島県鷲敷町を訪問したほか、反対に徳島県松茂町からの訪問団を北中学校が、また鹿児島県出水市からの訪問団を阿寒中学校が受け入れてくれた。いずれも有意義な交流がなされたとうかがっている。

全国学力・学習状況調査の結果については別途報告するが、各学校ではその結果とそれまでの取組を検証した学力向上プランを修正し、例年通り9月13日から10月7日にかけて学力向上プランの協議1を実施する。これは各学校個別に教頭を市教委に招集し、協議の際には、特に次の3点について、「学力向上に向けてどのような取組を行ってきたのか」「今

回の結果についてどう受け止め、それらの取組との関連はどうだったのか」「今後の改善策として「いつ、何を、どのように」取り組んでいく予定なのか」等についての説明を受けたうえで、適切なアドバイスを行っていきたいと考えている。対応は私、教育指導参事と学力担当指導主事が行う。

令和8年度の開校を目指している「学びの多様化学校」に向けての取組の1つとして、先日、文部科学省に指定されている学びの学校マイスターである岡田敏之先生をお招きし、教育委員の皆様方にもご参加いただきました通り学校関係者や一般市民を対象にした講演会のほか、関係機関や不登校児童生徒の保護者の代表を交えた意見交換会、さらに指導主事との学習会を実施した。これらを通して得た情報や頂いたご示唆を今後の学びの多様化学校の開設に向けた取組に活かしてまいりたいと考えている。

夏休み中に、初任1年目2年目の市内の先生方を対象にした研修講座を実施した。53名が参加したが、印象としては、真剣な顔で参加している先生が多く、学習指導や生徒指導についての説明を指導主事が行った後、私から30分程度のミニ講話も行ったが、いずれも真剣に取り組んでいた。研修後にアンケートをとったが、やはり日常の授業をもっと子供たち主体の授業にしていきたいであるとか、生徒指導や保護者対応で悩んでいるなどの生の声を聞くことができた。校長先生方には、若い先生方もやる気に満ちてはいるが、それなりに悩みも多く持っているので、積極的に管理職や先輩教師から話しかけて関わって欲しいと校長会議で伝えた。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(大山委員)

タブレットの持ち帰りの件で6校が持ち帰らなかったという話があったが、ここに書いてあるとおり「急に言われた」「推奨としか言われていない」「法的根拠はあるのか」「学校の主体性はどうなのか」というのは、できない校長の言い訳として、このようなことを言わせないように、はっきりと実施するよう言った方が良いと思う。気になるのはこの事実を小学校長会で把握しているものなのか。会長や事務局長は持ち帰りできない学校があるかどうかを校長会の中で必ず把握するもので、できない学校に対して指導しなければならないが、それをやっていたのかが気になる。今後何か起きてしまった際に、校長会として動かなければならない場面で、動けない校長会だと心配であることから、今回の持ち帰りができなかった学校があることについて、小学校長会の会長、副会長、事務局長はこの事態をどう思っているのか後で確認しておいて欲しい。

(本川教育指導参事)

後ほど報告させていただく。

(山口委員)

1年目の先生の研修講座があったと説明があったが、初任者研修は、現在どのようなものとなっているのか。

(本川教育指導参事)

初任者研修は法定研修として道教委が主体で実施しているが、今回行ったのは、市教委独自にはかの研修講座の一環として初任1年目、2年目を招集したところである。

(山口委員)

20年近く前の話になるが、1年間で道教委主催の研修を詰め込みで実施していた。5年くらいに期間を広げて、適当な段階で研修を実施した方が効果は上がるのではないかと思っていたが、現在はどのような実態になっているのか。

(本川教育指導参事)

現在も法定研修で、経験5年目研修、10年目研修と5年目まで段階的に道教委で行っており、回数が減っていく形になる。1年目は多いが、2、3、4、5年目と初任段階5年目までは研修履歴に残るような研修を行っている。

(山口委員)

理想の形に近づいて行っているということかと思う。今回実施したのはそれと別ということか。

(本川教育指導参事)

別である。